

令和2年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会

令和2年7月9日（木）
伊勢原市役所全員協議会室
午前9時 開会

○事務局・令和2年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を開会する。

- ・開会に先立ち、今回、第1回検討委員会は書面開催としたので、内容についてあらためてその概要を確認する。
- ・この検討委員会は、令和3年度に使用する小学校全教科の教科用図書及び中学校全教科の教科用図書について伊勢原市教育委員会が教科用図書を採択するために調査検討を行うものである。
- ・義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律等も記載されているが、「5 同一教科書を採択する期間」、採択期間は4年となっており、小学校では令和2年度から令和5年度までとなっている。採択している教科用図書が発行されない、などの場合を除き、引き続き使用することとなっている。小学校は昨年度採択替えを行っている。
- ・中学校用の教科書については、令和3年度より使用する教科書について、採択替えとなり、本日の検討委員会では、中学校用の教科書について調査検討を行っていただくこととなる。
- ・本日お集まりの委員の皆様のご選出については、教科用図書採択検討委員会設置要綱に基づき教育委員会から皆様方への依頼が進められ、本来ならば本市教育委員会教育長から直接委嘱状お渡しし、委嘱をするところであったが、今回は担当にてお届けし委嘱とする。

委員長及び副委員長の選出について

- ・設置要綱第5条1項伊勢原市教科用図書採択検討委員会に、委員長1人及び副委員長1人を置くことになっており、設置要綱第5条2項により、委員の互選により定められている。
- 今回は、書面にて行い、委員長、副委員長を選定した。
- ・設置要綱第8条に伊勢原市教科用図書採択検討委員会に、調査員を置くことができるとなっており、その調査員についても先日の書面会議にてご承認をいただいている。本検討委員会ではそのことを受け、後日各調査員には委嘱を行った。

- ・調査員は新たに検定を通った教科書の調査研究を行い、すでにお渡ししてある調査報告書を作成した。本日は教科種目ごとに調査員から直接報告を行ってもらう。

・それでは、あらためて第2回教科書検討委員会をはじめ。はじめに委員長より挨拶を行う。

○委員長・挨拶

○事務局・ただいま10名のご出席をいただいている。

・伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱第6条2項に基づき、過半数のご出席をいただいているので、本会議は成立する。

・資料の確認を行う。

・本日の次第

・第1回検討委員会資料（抜粋）

（令和3年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針 等）

（令和2年度使用小中学校教科用図書発行者・発行数一覧）

・机の間に学習指導要領が置いてあります。

・次に、事前にお手元に届けた資料、

「教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」

<平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版>

【A3版の資料で左上ホチキス1か所止めのものである。】

「教科用図書調査研究の結果（令和3・4・5・6年度用）」

・本日の配布資料にある、「令和2年度伊勢原市立小・中学校使用教科用図書採択方針」について、再度確認させていただく。

・採択方針を読み上げさせていただく。

（読み上げる）

・学校、児童・生徒、地域等の特性を考慮して採択する。

・学習指導要領に、各教科の目標や、内容等が書かれている。

・以上の点などを踏まえて、本日の検討協議を進めていただきたい。

・書面開催でも記載したが、この検討委員会は、静謐な環境のもとで採択事務を行うために、非公開となっているが、公式な会議のため、記録をとり、会議録をホームページで公表することをご承知おきいただきたい。また、情報公開の請求があった場合には、これに応じることになる。請求されればみなさまの名前も公開の対象となるのでご承知おきいただきたい。

・教育委員会は、採択にあたり、本日の検討委員会での検討協議の内容を参考にする。本日は採択に向けての参考として教育委員のみなさまが、委員長の許可を得て出席しているので、ご承知おきいただきたい。

・本日の会の進め方を説明する。

・令和3年度から中学校で使用する教科書16種目について、検討をお願いする。

・1種目20分から30分を原則とする。種目により、教科書の発行者の数が異なるので、多少の時間の前後が考えられる。

- ・調査員が、伊勢原市、平塚市、秦野市・二宮町・大磯町の共同調査研究の結果に基づき、報告する。
- ・報告についての質疑の時間を取り、終了した時点で、調査員は退出する。調査員退席後、検討委員のみなさんに検討に入っていただく。
- ・必要が生じた時には、調査員に再度入っていただき、質問することもできる。
- ・この場は各検討委員さんから十分に意見を出して検討していただく場であり、教科用図書を1種類に絞る性格のものではない。
- ・2者もしくは3者の発行者しかない教科種目もある。結果的に1種類もしくは2種類への意見が多くなるなどということは考えられるが、検討委員会としての方向性が幾分見えたところで、次の種目の検討へ移っていただく。
- ・休憩については、議長の判断で随時とっていただく。
- ・進行については、第6条第1項に基づき石渡委員長に議長をお願いする。

○議長・早速、検討に入る。

- ・採択については、教育委員会が令和3年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針に基づいて採択を行う。そのために必要な事項を調査検討することが本検討委員会の役割である。伊勢原の子供たちにとってふさわしい教科書、使いやすい教科書という視点で検討していただきたい。
- ・先ほど、事務局より説明があったとおり、教科1種目ごとに検討する。事前に県・地区の調査検討資料は、検討委員のみなさんに渡してある。

(調査員入室)

国 語

- 議 長・国語は4者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委 員・生徒にとって分かりやすく、理解が深まるような授業を行う上で、教科書の構成上の工夫はあるか。
- 調査員・実際自分で授業を行うことを想定しての感想になってしまうが、光村図書出版は、目標がしっかり書いてあるので、教師のほうが、しっかりと示していければ、生徒にとって活用しやすい教科書となると思う。
・その他の発行者については、初めのところで授業の流れが教科書に示されているので、授業の中で何をするのかという流れが、生徒にとってイメージしやすいと思う。
- 委 員・読書活動の充実を図るということで、教材に応じた読書の紹介を各者で掲載されているということだったが、特に特徴的な工夫があれば、教えていただきたい。
- 調査員・単元の中で学校図書館をうまく活用しながら調べるようになってきている。また学校の図書館や市の図書館をうまく活用できるような呼びかけをするということになると思う。
- 議 長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議 長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委 員・小学校との接続、連携ということで、1年生の教科書を中心に気がついたことや感想を述べる。東京書籍は、「学習を始める前に」ということで、どのように進めていくか基本的な流れが掲載されていた。三省堂は、小学校で学習した読解の基礎や基本と言われている部分を確認しながら進めていく教材が載っていた。教育出版は、「文学入門」という形で文学に親しむというような工夫がされていたと思った。光村図書出版は、「言葉に出会うために」ということで、小学校で習ったことを確認しながら進めていくような内容が掲載されていた。
- 委 員・中学校は今まで光村図書出版を使っているが、教科書を見た感じでは、資料が増えて理解につながりやすいということを感じた。単元の構成の最後のまとめに向かって授業が流れるような、単元の配列が授業に使いやすい順になっていると思った。東京書籍についても、教材として分かりやすく、親しみやすい編集になっているというような印象を受けた。
- 委 員・語彙を豊かにするための題材として、各者工夫や配慮がされている面もあると感じた。

・東京書籍では、各教材で文章中の語彙がまとめられている。教育出版では、3年間で学ぶ大切な言葉が作品にまとめられていると感じた。

・三省堂と光村図書出版のほうでは、思考や表現の助けとなる言葉が学年ごとに系統的にまとめられていたのが印象的だった。

○委員・小学校から中学校へのつながりという点で、1年生の教科書を見て、音読をして古典の世界を感じ取って、ものの見方や感じ方、考え方などを捉える教材が良いのではないかと思った。三省堂や教育出版、光村図書出版は、そのような構成になっているので、大変親しみやすいというふう感じた。

○委員・各者とも主体的に学習に取り組めるよう考えられた構成になっていたと思った。東京書籍は、「学びの扉」で付けたい力が示されていることで学習意欲が高められるように感じた。三省堂は、「学びの道しるべ」に学習の流れが示されており、振り返りができるように構成されていたと思う。教育出版は、「学びナビ」が設けられて、内容をよく深く理解し、知るための手だてが示されていたと思った。光村図書出版では、教材に続き、手引きとなる「学習」、主体的に学習に取り組めるよう流れが示されていたように感じた。各者それぞれ工夫されているが、生徒にとってどのような構成が学習しやすいかを考えていく必要があると思う。

○委員・私は「思考力・判断力・表現力等」についても各者大変工夫されていたと思った。光村図書出版は、「思考の地図」というコーナーが、巻頭の折り込みにそれがあることで、生徒の目につきやすいため、必要に応じてすぐに確認できると感じた。また、東京書籍は、「学びの扉」が随所に掲載されている点が生徒の学びにつながりやすいと感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ国語の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

(調査員入室)

国語（書写）

- 議長・国語（書写）は4者から発行されている。調査員に報告をお願いする。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・小学校では1年生から硬筆、3年生から毛筆と硬筆を行うが、中学校ではどのように書写の授業を行っていて、教科書をどのように活用されているのかというところを少し具体的に教えていただきたい。
 - 調査員・中学校では、ある程度まとまった時間を設定して書写の授業を行っている。硬筆と毛筆の指導を関連させながら授業を展開している。
 - 委員・小学校では、文字の学習という面からも書写は国語との関連が大変強くなっているが、中学校では、国語をはじめ他教科にどのように生かされているのか。
 - 調査員・通常の国語の授業でも、書写の授業でも、丁寧に速く書くということは、常日ごろから指導している。他の教科などでのノートのとり方に関しても国語や書写の授業の中で取り扱っている。
 - 議長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いする。
- 委員・4者とも姿勢や筆記具の持ち方が非常に丁寧に示していると感じた。鉛筆の持ち方や筆の持ち方については小学校から指導しているが、中学校1年生の段階でもう一度再確認したいと感じているので、大変好感を持てた。
 - ・東京書籍と光村図書出版では、特に姿勢についても気をつけたい内容についてのチェック欄があり、生徒たちが確認しやすいのではないかと感じた。
 - ・また、三省堂は、毛筆と硬筆の姿勢の違いについても示されており、確認するのに役立つのではないかと感じた。
- 委員・毛筆の手本の掲載の仕方について、各者で特徴があったと感じた。東京書籍と三省堂は見開きの左側のページのほうに、教育出版は右側、光村図書出版については見開きの4ページ、さらに半紙大の手本がついていた。それぞれの良さが考えられるが、生徒の机の限られたスペースの中で学習するにあたって、使いやすさ、分かりやすさも重要になってくるのではないかと感じた。
- 委員・毛筆の筆遣いについて、色を離れた薄い部分と濃い部分があって、どこに力加減を入れたらいいかがよく分かるような、動きが分かるつくり

だった。指導するときには、「ここをグッと書く」、「スーッとやる」、といったように授業を進めている。東京書籍と光村図書出版は、筆を使うときに、トンと置いてスーッと引くというような音が書かれていて非常に親しみやすいし、小学校でやっていることとつながると感じた。

○委員・どの発行者も、文字を書くということを通して主体的に学ぼうという意識を感じるように構成されていると感じた。巻頭に学習の進め方が示されている。自ら課題を見つけて、その課題を考えながら毛筆や硬筆で書いて確かめ、学習したことを生活の場に生かしていこうという流れを、どの教科書からも感じた。示し方が分かりやすく、その課題を意識しやすいと感じたものは、東京書籍、教育出版、光村図書出版、と感じた。「見つけよう」や「考えよう」というコラムで、自ら課題を見つけたり、考えたりすることにつながりやすい構成だと思った。

○委員・実際の生活、日常生活との関連ということで、各者大変工夫されていた。例えば、はがきの宛名、お礼状の書き方、荷物の送り状や入学願書など、様々な書式の書き方について記載があった。中学校では、職場体験のお礼状や高校入試等に活用できるのではないかと。東京書籍は様々な書式がまとめられている書写活用ブックがあり、新聞やリーフレットなどの書き方も掲載されているので、他教科の学習にも役立つのではないかと。

○委員・小学校では書写の学習は国語の単元とかなりリンクしているところがある。国語で短歌や俳句を作るというようなことが書写のほうでも生かされていて、関連した内容のものを学習している。小学校では発行者を同じであるが、中学校では考慮する必要はあるのか。

○委員・国語と書写との発行者が異なっている中で授業を進めているけれども大きな問題はないときいている。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ書写の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

社会（地理的分野）

- 議長・社会（地理的分野）は4者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・歴史と公民とのつながりや、現在の情勢、例えばEUの離脱の問題等があるが、そういう場合どのように教科書を使って授業を進められるのか。
- 調査員・教科書にある題材を使って行う。例えば地球温暖化を防ぐというのがあるが、そこまでに地球温暖化の問題等についても学習は進めているので、ある程度知識がある状態の中で生徒たちに投げかける。やり方はいろいろあるが、例えば、ほかの資料やインターネットを使い、今の世界の諸問題、今後に関わる問題は何があるのかを調べ、様々な資料の中から自分たちでまとめていくなど一方的に教えるのではなくて、生徒たちが主体的に活動できるような取り組みを行っている。
- 委員・私たちが住んでいるこの神奈川県に関することが取り上げられている部分がある。このことは生徒にとってどのようなメリットがあるか。
- 調査員・関東地方を学習する際、例えば、横浜の中華街やみなとみらいが出てくると、「行ったことがある」、「知っている」といったように身近に感じられるので、興味や関心を持ちやすくなるということはよいと思う。
- 議長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見をお願いします。
- 委員・小中接続という部分では、小学校の場合は復習内容を振り返りながら進めて新しいところに入っていき、進めていくという部分を見ると、どこの会社もそういった部分が工夫されていると思った。
 - ・学習事項別の課題が設定されていたり、最終的に、終わりのほうには学習内容を確認する部分があったりということで、教科書が、1つの単元が流れになって学びやすくなっている工夫があると感じた。
 - ・今まで習ったことをもとにして、さらに発展するような課題が設定され、さらに深めていく構成になっている工夫がどの発行者もなされていると感じた。
- 委員・神奈川県に関する記述、あるいは写真やグラフ、地図など、どの各者でも取り上げられていることは生徒にとって興味、関心を引く、あるいは身近であると感じた。横浜市や川崎市、大都市相模原市などはどの者でも確認することができた。帝国書院と東京書籍、この中には厚木、平

塚、秦野など近隣の地名も掲載され、より身近に感じることができると感じた。

・神奈川県調査結果に一覧があるが、帝国書院は神奈川県の資料がやや多いように感じた。

○委員・どの者も見開き2ページにまとめられていた。世界と日本、世界の様々な地域、日本の様々な地域とで構成されており、最後には、今日的な課題について、地域の在り方を設定していた。特に帝国書院では、SDGsの意義への理解ということで、環境、防災、共生を主題とした章となっていることがとても印象的だった。

・日本文教出版では、京都市を例に挙げており、伊勢原市は修学旅行で京都を訪れるので、生徒にとっては身近と感じた。

・教育出版では、農村や都市など様々な地域についての課題と、それから地域の在り方がまとめられていた。

・東京書籍では、身近な課題を見つけるところから始まり、課題を見つけ、発表するまでの流れがとても分かりやすくまとめられていたという印象だった。

○委員・どの発行者も豊富な資料、たくさんあり、それをもとに生活や文化、環境、歴史的背景などから様々な事象についての関連づけながら学習ができるようになっていると感じた。

・東京書籍では、歴史、公民分野と同じ資料が掲載されていたので、より関連づけることができると思った。どの発行者も歴史、公民分野との関連が分かるようにマークがついていたり、そのコーナーが設けられていたりなどしていた。

・帝国書院と日本文教出版では、小学校の歴史、公民分野との関連が示されていた。

○委員・写真やグラフ、地図等の資料から内容を読み取って情報活用能力を育成する、これは非常に重要な観点だと思った。どの者もこの手法が示されていると思った。

・教育出版では「地理の技」で地図やグラフの使い方について触れており、使いやすいやすと思った。

・帝国書院についても、「技能を磨く」という掲載があり、それが使いやすいと感じた。中でも、「ハザードマップの読み方」、「防災情報の入手の仕方」という点では、やはり生徒が大人になって市民生活を営む上で重要な視点であるし、培った情報活用能力を大人になっても生かすという点では、分かりやすく示されていると感じた。

○委員・どの者も地域調査のところで体験的な活動が取り入れられていた。東京書籍では、地域についてテレビ局のディレクターになったつもりで調べ、考えを発展するというような形で、大きな単元構成になって、ボリューム感を持った活動が補償されていると感じた。

・日本文教出版では、工場建設のシミュレーションというコーナーがあ

って、北半島のどこに工場を作るかというようなテーマで、地理的な条件からそれを考えていく。臨場感を持った活動に取り組めるような工夫がされていた。

○委員・「深めよう」のところで、減災について書かれていて、子供もニュースを見ていて興味を持っているところがあった。実際の授業で、そういった集中豪雨とかそういうのがある中で、教科書だけでなく、実際にニュースを見ている中で教科の中でも深めて考えていくことができれば、親としてもそういう政治、経済、社会問題に対して子供ともまたより深く話ができるかと思った。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ地理の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

社会（地図）

- 議長・社会（地図）は2者から発行されている。調査員に報告をお願いする。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・工夫というところで、各者、印象に残った点や特徴などあれば教えていただきたい。
 - 調査員・東京書籍は、資料が豊富にあった。歴史や公民に関わる資料もしっかり載っている。帝国書院は、A4判で非常に見やすい。地図や資料として使うのであれば見やすい。はっきりしているから分かりやすいと感じた。
 - 委員・地図帳ということで、教科書と併用して使うことになると思う。現在は同じ出版社のものを使っているが、子供たちの学びやすさという点で、出版社が教科書と地図帳が異なってもいいのか、同じほうが使い勝手がいいのか。
 - 調査員 連動しているので、できれば一緒のほうが使いやすいと思う。
 - 議長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いする。
- 委員・生徒が学習するにあたって、地図というのは見やすさがとても大切な要素だと思う。帝国書院、東京書籍ともに写真とかグラフや図がとても大きく使用されていたので、見やすく、また使いやすいと思った。
 - ・帝国書院は、A判ということで、世界の各州についての鳥瞰図が掲載されていることで、位置や空間的な広がりをつえやすいと思った。地図は明るい色使いがとても良かったと感じた。地図上での文字が見やすく、読みやすくなっていること、また、高低差、標高とかがはっきり分かることと、メリハリをつけた鮮明な色分けをしていると思った。日本の地形の特徴がとても掴みやすいと感じた。
 - ・東京書籍は、AB判で、写真や絵が多く配置されていて、写真には、見出しのほかに補足的な説明が加えられ、地域的な特色をつえる視点に立って構成されていると思った。
- 委員・歴史や公民にも対応できるように、帝国書院、東京書籍ともに歴史的分野、公民的分野の学習に連携した地図や資料が掲載されていた。
 - ・帝国書院のほうは、様々な宗教や霞ヶ関等の地図や資料が掲載されていた。東京書籍は、「歴史の舞台九州地方」や「ピックアップ東京」などに、地図、資料が掲載されていて、こちらが歴史、公民との関連づけが分かりやすいようマークが付いていた。

・世界の気候、海流、世界各地の平均気温、降水量など、学習内容と関連する資料が「ジャンプ」という形で見やすく示されていた、生徒がすぐ調べられるように記されていた。

○委員・帝国書院では、「地図活用」という枠の中で、トレーシングペーパーで写し取る地図を使った調査方法を体験する活動が掲載されているのはよいと思った。

・東京書籍は、「みんなでチャレンジ」で、人口ピラミッドを完成させる活動が掲載されていて、子供たちが興味を持てる活動になると思う。

○委員・子供たちが主体的、自主的に学ぶ資料ということでこの地図を見た。

・帝国書院は、例えばこのページを開くと、この中に地図活用というような問いかけ、学習課題を示していて、子供たちが主体的に学ぶというヒントが示されている。具体的な活動を通して、地図の活用する能力を培っていくという工夫がされていると感じた。

・東京書籍も同じように、巻頭のほうにテーマ、資料が設けられていて、今、どんなことが課題、問題になっているのか、環境問題、日本各地の資料図の中で防災などをテーマにした資料が盛り込まれていて、今日的な話題を学ぶ資料になっていると感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ地図の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

社会（歴史的分野）

- 議 長・社会（歴史的分野）は7者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委 員・主体的・対話的な深い学びという視点で、各学習内容で課題をつかめるような学習課題はあったか。
 - 調査員・例えば、東京書籍などでは、それぞれ章、節、そして1つの授業に対してそれぞれ課題が設定されており、それをもとに単元を通して考えることができるようになっている。ほかの出版社でも同様ものが設定されているので、学習に取り組めると思う。
 - 委 員・歴史を学習する上で年表を活用することがとても大事だと思うが、何か工夫されている点を教えてほしい。
 - 調査員・例えば、帝国書院などでは、冒頭の部分に年表が示されていた。ただ出来事だけでなく、時代の名称等も併せて書かれていた。
 - 議 長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議 長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委 員・小学校では、歴史の学習は6年生で行う。中学校に行くと、さらに深く意義を感じられるような学習に移っていくと思う。各教科書ともその接続ということで、第1章には、歴史の流れを捉えるため、小学校の学習との接続を図る記載があり工夫されていると感じた。
 - ・教育出版では、すごろくで時代の流れを意識させながら、時代の特徴や登場人物を提示していた。
 - ・東京書籍や育鵬社、日本文教出版では、グラフを多く使って、小学校で学んだ主な出来事や人物について思い出させるような工夫があった。歴史学習の導入として、子供たちの興味、関心を高める上で良いのではないか。
- 委 員・各者の導入では、生徒にとって分かりやすく、理解が深まるような構成上の工夫を凝らしていたと感じた。どの発行者にも、導入では年代とか、あるいは時代区分などについての学習するページが設けられて、しかも見開き2ページでまとめられていた。特に東京書籍や帝国書院では、生徒にとって分かりやすい学習課題を設定され、調べ方やまとめ方が丁寧に書かれている印象を受けた。
- 委 員・唯一、学び舎についてはA4判で非常に写真が大きく掲載されていて、特徴的であった。ほかの6者についても、A B判で写真や図は同様に大

大きく掲載されているので非常に見やすく、生徒たちもこれを見て印象にも残り、非常に見やすい印象が感じた。

○委員・生徒が歴史を学習していく中で、歴史の前後関係ですとか流れを掴ませるために、年表を活用していくことはとても大事であるとする。日本文教出版と帝国書院は、右側のページの右端に時代名を記した年表があった。教育出版は、左ページの学習課題の上に、東京書籍は、見開き1ページの左下に、日本文教出版と帝国書院は右ページの右端に、教育出版は各章の初めにこれから学習する時代として位置づけていた。

○委員・伝統や文化という点では、山川出版社では「地域からのアプローチ」というコーナーで、身近な地域から学んでいくということで、地図や資料で示して、各時代に関連する課題を提示していたことが学習の進め方としてよいと思った。

・東京書籍は、絵画資料、屏風絵、浮世絵が資料から発見というコーナーにまとめてあり、絵と現在の写真を比較し、どのように変わったかが具体的に示されていて、分かりやすい印象だった。

○委員・生徒にとって分かりやすく、理解が深まる構成上の工夫として、どの発行者も見開き2ページを1つのテーマで構成している、最初に学習課題があり、右下のほうには振り返りのコーナーという形で多くの教科書に掲載していた。まとめや考えを深めるという点では、特に東京書籍、帝国書院は、学習課題に対して確認することや説明することをとて分かりやすく、しかも具体的に提示しており、非常に的を絞った構成であると感じた。

・振り返りのコーナーでは、知識、理解の定着を促す学習の確認、説明等の言語活動を行う応用の2ステップになっているのが教育出版、帝国書院、日本文教出版に見られた。学び舎は、大きな時代のまとめとして部ごとのまとめがあるなど、どの発行者もまとめという点で非常に工夫されていた。

・帝国書院の歴史の「タイムトラベル」のページには、イラストで現代と分かりやすく比較して、生徒が時代背景をつかめるイメージで捉えることができると感じた。

○委員・生徒にとって分かりやすく、理解が深まるような構成上の工夫が大切であると思う。

・帝国書院では、「タイムトラベル」というようなコーナーで、小学校で学習したことや既習事項の橋渡しとして活用でき、時代のつながりをつかみやすい工夫であったと思った。

・東京書籍では、見開き2ページで各学習内容や学習課題、振り返り、「チェック」と「トライ」が掲載されていたので、生徒にとっては、学習の見通しがもちやすいと感じた。年表も時代によって分かりやすく工夫されており、とても見やすい工夫であると感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

- 議 長・なければ社会（歴史的分野）の検討を終了する。
- ・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
- （異議なし）

社会（公民的分野）

- 議長・社会（公民的分野）は6者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・地理や歴史と関連づけて授業を進めると思うが、もし公民の教科書が地理、歴史の教科書と発行者が異なる場合、授業がやりづらいなどはあるか。
- 調査員・現状、今も公民だけが東京書籍で異なっている。私個人の意見ではあるが、やりづらさは、特に感じていない。大体同じような形で触れられているので、特に問題ないかと思う。
- 委員・主体的に学ぶ、自ら学ぶときに、公民の分野での資料の活用が大切であると思う。資料について、各者の工夫や印象に残っているものは教えていただきたい。
- 調査員・東京書籍のまとめの部分、例えば、「ステップ1」から「ステップ3」という形で「探究のステップ」が載っている。単元で学んだことを使って考える時に、様々なシンキングツールを提示していることは、特徴であると感じた。資料について考えさせる際に、シンキングツールを活用していくことは有効な手立ての一つであると思う。それを紹介しているという点では、東京書籍に工夫を感じた。
- 議長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見をお願いします。
- 委員・公民で使う言葉は、政治や経済的な言葉が多く含まれていて、生徒にとって難しく感じるのではないかと想像する。日頃の生活でもなじみが薄いものも多々教科書の中にも出てくる。基礎的・基本的な知識の定着のために、東京書籍、日本文教出版、自由社、育鵬社では、各章のまとめの重要語句が各章にまとめられていた。確認や整理をするときに、生徒たちにとっても非常に見やすく、分かりやすいのではないかと感じた。
- 委員・東京書籍では、学習を進めるうえで、「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを設けて、理解を深める工夫や配慮が見られた。
 - ・帝国書院では、見開きの左ページに学習課題が設定されていて、右ページに「確認しよう」、「説明しよう」を設けていて、学習の理解を深めていると感じた。
 - ・教育出版では、章末に「学習のまとめと表現」というコーナーでは、章の学習内容について考えたことをクラスメイトと意見交換をする活

動が設定されている。

○委員・地理や歴史との関連性という点では、東京書籍は、分野関連マークで関連を示していた。

- ・育鵬社では地理、歴史で学んだことをマークで示して紹介している。
- ・帝国書院は、「地理、歴史をふりかえる」で学習内容を意識的に振り返ることができるように配慮されている。
- ・日本文教出版では、「連携コーナー」で、教育出版では、「関連」で小学校の社会科や地理・歴史的分野とのつながりが示されていたと思った。

○委員・各者とも教科書の第1章や第1に入るまでの序章の中で、社会的な見方・考え方の基礎として具体的な事例を挙げて、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」等の概念について取り上げていた。

- ・東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社、自由社では、生徒にとって身近な問題を取り上げ、自分たちで考え、話し合いながら理解させる形式が作られていた。なかでも東京書籍の「まとめの活動」や日本文教出版の「学習の整理と活用」では、学習したことについて継続、発展できるような課題が設定されていて、繰り返し学習できるような構造になっていると感じた。

○委員・新学習指導要領で重点に置かれている主体的、対話的で深い学びという観点で、印象に残った幾つかの活動について述べる。

- ・東京書籍では、「みんなでチャレンジ」の「多数決で考えよう」で、多数決が正しい決め方なのかをグループで話し合うという活動を取り入れていた。身近な問題としても捉えやすい課題であったと思った。また、持続可能な社会を実現するために、カードや表を使って整理する活動を取り入れていることが生徒にとって取り組みやすい工夫であると思った。
- ・教育出版では、「国際社会に生きる私たち」の中で、持続可能性を妨げる様々な課題について投げかけており、国際社会の平和の実現に向けて、発展途上国は環境保護と経済発展においてどちらを優先すべきなのかということについて、お互いの考えを深め合う活動を取り入れていた。
- ・日本文教出版では、地球温暖化に対する政策について考えようという学習設定があり、資料の収集と読み取りをもとに考察を進めて、再生可能エネルギーをテーマにして課題を整理し、発表するというような一連の学習を取り入れている点がよかった。
- ・帝国書院では、自分が住むまちづくり、よりよいまちにする方法ということをKJ法的手法でグループの意見をまとめていって、予算をそこで立ててみようといったような活動を設定していた。臨場感のある活動であったと思う。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

- 議 長・なければ社会（公民的分野）の検討を終了する。
- ・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
- （異議なし）

数 学

- 議 長・数学は7者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委 員・数学は積み上げの教科であると思う。生徒の学習上での困難な場合や、つまずいたときの対応について、教科書の中での示し方等の工夫について教えていただきたい。
 - 調査員・東京書籍は、ダイヤ型のマークがついている。基本的に、例題を授業で扱ってから問題演習という形になると思う。ダイヤ型のマークの付いている問題が例題から次のステップに移るときに、スモールステップとしての問題として設定されていると思うので、そこを授業で扱うことによって、さらに深い理解につながればよいと思った。
 - ・例、確かめ、問いというような流れで、問いの間をつなぐような問題として作られている発行者もあった。
 - 委 員・英語や国語、道徳に限らず、グループ活動での話し合いだったりとか、友達の意見を参考にしたり、自分の考えを深めたりという、いわゆる言語活動は大切であると思う。数学的な課題解決をする活動を促すための工夫、友達の意見を聞くような場面は各者にあったか。
 - 調査員・いろいろな教科書に登場人物があり、吹き出しがある。吹き出しの数がどの各者も多くあるというような印象があった。一番多かったと感じたのは数研出版である。ほんとうに授業の中で生徒と対話をしているような場面がある。本来であれば、それを教員と生徒がそこで繰り返し広げるものであると思う。教科書に載ってしまっていると、そこにのらぎるを得ないところもあると思う。本来は、そこを教員が実力を上げていって授業を進めていくものであると思う。
 - 議 長・小学校で算数、中学校で数学と変わる中で、子供たちが中学校で数学に親しみやすいような工夫があれば教えてほしい。
 - 調査員・数学は一般的に中学1年生で正負の数から始まる。その第1章は同じだが、スタートの部分で、7者あるうちの3者は、数を分解していく素因数分解から入る。残りの4者は、マイナス、プラスを教えるようになっている。どちらがいいということではなく、最初に今までいわゆるプラス、マイナスを教えていたところを、素因数分解というものを持っている。そのことは特徴であると感じた。
 - 議 長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

(調査員退室)

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・小学校との接続、連携という点でいくつか述べる。どの発行者も小学校で学習したことを振り返りながら、特に1年生の教科書では進めていくということができるようになっていたと思う。かけ算九九を導入しているのが東京書籍。かけ算は小学校の算数ではかなりウエイトを占めている。算数から数学になってもそんなに難しくないのでかなといった感覚を子供たちは持つことができるのではないかと思った。
- ・教科書によっては、活用や発展が高校へつながるような工夫をする発行者もあった。
- 委員・数学は繰り返し問題を解くことが非常に大切になってくると思う。どの発行者も巻末に補充問題をしっかりと用意していて、練習問題がある程度用意されていると、それぞれ進み具合が早くても遅くても自分の個に応じて多様な問題をこなしていくことができると思った。
- ・東京書籍は、学習のまとめりごとに学習の目当てが示されて、問いには例題、その例題に準じた類題のようなマークがついていて、同じような問題があり、図の見やすさもあって、非常に生徒の学びやすさにつながっていると思う。
 - ・学校図書は、既習事項などを示した「振り返り」というコーナー、間違いやすい例を取り上げていたように感じた。
 - ・大日本図書は、学習の進度、習熟度に応じて個に応じて「プラスワン」というコーナーとして設けられ、章末に「力を伸ばそう」、巻末に「補充問題」、「総合問題」というものが設けられていた。
- 議長・数学に苦手意識を持っている子は少なくないと思うが、少しでも興味を持てるような工夫をしているような教科書、お気づきになった点などがあれば教えていただきたい。
- 委員・苦手意識のあるお子さんにとっては、体験を通して学ぶということがとても重要になってくると思う。良かったと実感できるような経験の保証という点から、どの発行者も取り組める工夫がある。特に空間図形という分野で、実際に立体的に組み立てて目で見えるようにすることが大切だと思う。第1学年の様々な空間図形の中では付録を使って確認できるようになっていた。
- ・東京書籍、教育出版では、単純なものから複雑な図形まで豊富なものが準備されていたり、日本文教出版では、展開図の各面に番号が書かれていたりして、苦手なお子さんにも分かりやすいような工夫がされていると思った。
- 委員・今回の学習指導要領の改訂では主体的・対話的な深い学びが求められている。各者にわたって、そういった学習活動の実施に向けた工夫や配慮がされていると思った。
- ・中学校での数学の授業では、時々、生徒から「数学は世の中に出てどう役に立つの」といったような素朴な質問が出されることがある。教科

書などを通して日常生活に関わる数学が紹介できると、興味だけではなくて学ぶ必然性や苦手でもやらなければならないという気持ちが育まれると思う。

- ・東京書籍では、全体的に中学生が興味を持ちそうな話題が多いように感じた。「深い学び」の活動のコーナーでは、話し合って課題解決を行う活動がどの学年も楽しそうだった。

- ・新興出版社啓林館の2年生では、誤答例について説明させる課題もよいと思った。なぜ間違っているのかについて説明する能力というのは、やはり数学的な思考力につながるものと感じた。

- ・教育出版の「学習するにあたって」においても、話し合うときに大事にする内容が示されている点もよい。

- ・教科横断的な学習の工夫について、数研出版は「探究ノート」が別冊で用意されていて使いやすいと感じた。

- ・それぞれいろいろな特徴があり、実社会や実生活で使える内容が織り込まれているということは非常によいと思う。

○委員・振り返るという活動も大切である。東京書籍は、先ほども話題になった「深い学び」のコーナーで「問題把握」、「見通し」、「解決」、「振り返りかえる」といった振り返る活動だけではなくて、学習の一連の流れがはっきり示されていたので、使いやすいと思った。

- ・教育出版は、巻末の「学びのマップ」では、本学年の内容との系統性について示されているとともに、前学年までに学習した主な内容が領域ごとに分けて一覧として掲載されていた。学習を振り返ったり、進めたりするのに分かりやすい。

- ・学校図書は、各章の終わりにある「できるようになったこと」では、学習内容の振り返りと習熟度の自己評価ができるように学習の振り返りの観点が示されていた。

- ・大日本図書は、学習を振り返って分かったことや、さらに考えを深めたこと、調べたことを書くなど、分かりやすく示されていると思った。

○議長・学校では経験の浅い先生も若干増えてきている。先生たちにとって教えやすい工夫など、お気づきの点があれば、お願いしたい。

○委員・指導主事が経験の浅い先生方を指導する際も、授業の最初には目あてを示すことの大切さを言っている。その時間に何をするのか目あてが明示されていると生徒も見通しが立てやすいのでよい。例えば、東京書籍や大日本図書、日本文教出版では目あてが明示されている。また、学校図書と数研出版には目標ということで記されている。

- ・目あてが明確になっていることで、教員としては1時間の授業の進め方や生徒の活動の仕方のイメージが持ちやすく、授業の組み立てがしやすくなるのではないかと思う。生徒もゴールを把握しやすいので、目あてが示されているということは大切であると思う。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

- 議 長・なければ数学の検討を終了する。
 - ・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。（異議なし）

理 科

- 議 長・理科は5者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委 員・生徒が理科に興味関心を示すためには、自分が今学んでいることがどう実社会に結びついているのかなということが分かるとよい。実社会や実生活、それから日常生活とのつながりについて何か工夫のある点があったら教えていただきたい。
- 調査員・生活との関わりといった点については、特に巻末や章の終わり、または教科書の後ろのほうのページに掲載されていることが多い。二次元コードが入っている発行者については、インターネットで調べるのに適したサイトに直接アクセスしているものと会社のサーバーを通してアクセスするものがあるようだ。
- 委 員・小学校でも理科は観察や実験などが非常に多く、いろいろな実験器具を使う。中学校においては、実験自体も難しくなったり、器具も多くなったりすると思う。器具の使い方や基本操作などについて、教科書で何か工夫や配慮されている点があれば教えてほしい。
- 調査員・全教科書に器具の使い方の紹介のページ、理科室の使い方の紹介のページの記載がある。各実験器具、特殊なものについては、学習する前のページまたは一番後ろのページのところにその説明や注意書きが入っている。
- 議 長・今後、端末1人1台という状況になったとき、二次元コードを利用するとき、使い勝手の期待度、使い方など教えていただきたい。
- 調査員・二次元コードでアクセスできるところは、各者とも幾つかある。例えば顕微鏡の使い方やガスバーナーの使い方といった基本的なところから調べ学習に関するサイトへアクセスするものもある。
- 議 長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議 長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委 員・写真や資料など、どの発行者でも豊富に使われていて、特に身近な私たちの住む神奈川に関するものも多く掲載されていた。神奈川県調査結果では、特に大日本図書は神奈川の話が多かったように感じた。生命の星・地球博物館や火山の例に箱根の写真が使われ大変身近でよいと感じた。
- 委 員・実社会とか実生活に結びついているということが大きく理科は関わってくると思う。大日本図書では、例えば、食品からの気体発生について

や気象と農業の関係、プラスチックリサイクルなど、実社会に結びつくような話題が「暮らしの中の理科」というコーナーで取り上げられていた。

・東京書籍では生活排水、学校図書では運動エネルギー場面でのスポーツ運動エネルギー換算について、教育出版では錆びたねじについて、新興出版社啓林館では体内の塩酸について分かりやすく紹介されていた。

○委員・観察・実験のときに使用する実験器具について、小学校で使用していなかった器具も中学校ではたくさん扱われている。使い方や基本操作などについてそれがどの発行者も非常によくまとめられていると思った。巻末にまとめられていたものや、実験ごとにまとめられていたものがあったので、使用する際に、注意して生徒も使えるのではないかなと思った。

・特に大日本図書では、基本的な操作について図や写真が非常に多く、はっきりと示されているので分かりやすかった。

・学校図書では、注意書きが記載されており、生徒自身が意識をしながら使用することができるのではないかと感じた。

○議長・児童生徒は観察や実験が大好きですが、その結果をまとめて、考察をして、結論やその理由をまとめるということについては苦手意識を持っている生徒もいる。科学的な思考力や探究する観点で、工夫が感じられる点など何かお気づきのことがあればお願いしたい。

○委員・科学的な思考・判断力という点については、それぞれいろいろな工夫をされていたと思う。探究のプロセスなどについては明確に記され、観察・実験を通して、考察していくという構成に各者になっていた。

・教育出版と新興出版社啓林館では、「私のレポート」とレポートの書き方についてまとめてある部分があり分かりやすかった。新興出版社啓林館には、生徒が苦手なグラフの作成や作図といった目で見えない部分をモデル図にして示してあり、分かりやすかった。

・大日本図書は単元の最後に読解力問題として、少し問題は難しそうだけれども今まで習ったことを使いながら読み解いていくという問題があった。そういった部分は思考力・判断力という部分では特徴的だったと思う。

○委員・体験的な学習、体験的な活動を通して理解を深めるという工夫として、東京書籍はコンニャクを使って地震を感じる例があった。身近な素材を使っていた。

・教育出版では、目に見えない原子のモデルカードが付録であり、組み合わせることで粒子を作るなどの体験的なものができることがよいと思った。

・大日本図書ではスピーカー作り、学校図書ではクリップモーター作りを通して、生徒が苦手とする電流と磁界の原理を体験できるようになっていた。目で見えないものというものを作りながら、電流や磁界、その向きを考えることができるということ、原理や法則を活用しながら考え

ることができると思った。

○委員・主体的・対話的で深い学びの実現ということが大切になってくると思うが、年齢が上がるにつれて、理系は苦手だなという意識を持つ生徒もいる。そういう生徒も親しみやすい活動場面の設定の工夫が各者見受けられた。

・東京書籍では、発表の方法をイメージできるように、漫画の解説欄というのが取り入れられている。

・大日本図書や教育出版では、話し合い活動を取り入れる場面で、キャラクターの話が提示され、分かりやすい工夫だと思った。

・どの発行者も話し合う場面の設定を行い、様々な意見や考えを聞くことができるような工夫がされている。

○委員・科学的に探究するという点については、振り返る活動も必要になってくると思う。振り返って考えることができるように工夫されている点として、東京書籍では章全体の振り返り、大日本図書では「振り返ろう」というマーク、新興出版社啓林館では探究の振り返りの中に「ここをしっかりと」というように目立つように工夫がされていた。

○委員・理科の教科の多くの特徴として、数値化するような場面が多く、教科の特徴として横断的ということで数学とのつながりが求められる場面、データ処理や法則を使って考えるときに、数学の計算が必要となる場合があり、生徒が苦手意識をもつ場面の一つである。

・教育出版や学校図書では、特に比例について、教育出版は、単位について分かりやすくコーナーが設けられていた。

・大日本図書では、光の三原色が美術とつながり、一酸化炭素が保健体育とつながっていく。

・東京書籍においては、技術・家庭科とつながっていたり、新興出版社啓林館では、栄養素が家庭科とつながっていたりするなど、横断的な意味での学習が深められる要素が多くあった。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ理科の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

音楽（一般）

- 議長・音楽（一般）は2者から発行されている。調査員に報告をお願いする。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・『赤とんぼ』という教材の説明があったが、同じ教材であってもこの2つの出版社によって学習する順番が違っているという部分も多い。指導するに当たって困難さみたいなものはあるか。
 - 調査員・特に大きく、この教科書を使っているから困難で、この教科書がやりやすいということはない。
 - 委員・音楽のA表現、B鑑賞という教材がありますが、系統的、発展的に学習を積み重ねていくというようなことについて、配列の違いや工夫という点で何かあるか。
 - 調査員・オーケストラの扱いのところの順番が違うように感じた。教育芸術社は小さい編成からだんだん大きくなって行って、最終的に総合芸術というような流れになっている。教育出版は、まず大きな有名なところをおさえてから、そこから派生してという学習の流れで、若干の違いはあると思う。
 - 議長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 委員・2者ということで、教育芸術社では、第1学年の冒頭の部分で2曲の歌唱教材、『We'll Find The Way』と『その先へ』という曲で、その作曲者から新しい3年間が始まるよというような内容の新入学生へのメッセージが掲載されている。新しい環境になった生徒に音楽を通してメッセージが載っているというところが印象に残っている。
 - ・教育出版については、第1学年の冒頭が「アニーローリー」という曲のソプラノリコーダーの演奏となっている。小学校でソプラノリコーダーは学習しているので、小学校と中学校との円滑な接続につながっているのではないか。
- 委員・思考力・判断力・表現力等の育成に関して、教育出版については、1つの教材がコンパクトに見開きでまとまっている。さらにそれをほかの教材と比べることによって、比較してその特徴の良さをつかめるというような構成になっていると感じた。
 - ・教育芸術社は、表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されていて、教材を通じて言語活動や思考力・判断力が育まれる構成になっていると思った。

- 委員・2者とも主体的、協働的な学びというようなものが図られるように工夫されていて、共通事項と関連づけながら学習を進めていくという工夫が見られた。
- ・教育出版では、全学年においても音楽を形づくっている要素が「学びのユニット」ということでまとめられていた。
 - ・教育芸術社では、全教材で下のほうに音楽を形づくっている要素が明確に示されていたと思う。それぞれ特徴があった。
- 委員・教育芸術社では、国語科や社会科と関連した平家物語、琵琶法師によって語られて、後世の芸能に影響を与えるというような内容についての掲載があった。教育出版は、「音って何」ということで、理科と関連した音の出る仕組みや音の伝わる速さについての解説が掲載されていた。
- 議長・ほかに意見はあるか。
- <<なし>>
- 議長・なければ音楽（一般）の検討を終了する。
- ・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
- (異議なし)

(調査員入室)

音楽（器楽合奏）

- 議長・音楽（器楽合奏）は2者から発行されている。調査員に報告をお願いする。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・教科書の工夫として印象に残った点はあるか。
 - 調査員・印象に残った点は、教育出版は、学習内容がまとまって示されていると感じた。
 - ・教育芸術社は、例えば、練習曲などもページをめくっていくと段階的に難易度があがっていくので、3年間使っていくと積み重ねが感じられていくといった印象を持った。
 - 委員・一般と器楽合奏の出版社が仮に違ったとすると、指導をする上で何か不都合が出るか。
 - 調査員・音楽（一般）の教科書で習った曲が楽器演奏の楽譜として取り扱われていたりすることもあるが、個人的にはあまり意識はしていない。
 - 議長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・取り扱う楽器について、教育芸術社ではリコーダーやギターなどの西洋楽器、和楽器の順に記載されている。一方で、教育出版は、リコーダーなど吹く楽器、弾く楽器、打つ楽器といったような種類分けがされている。そこの違いと感じた。
- 委員・知識、技能に関わる学習活動だが、教育出版では、リコーダーや和太鼓の演奏についての構えや姿勢について、手元を拡大した写真が掲載され、息の流れについて示されるなど、見やすく分かりやすいような工夫がされている。
 - ・一方、教育芸術社の中では、ギターや琴における姿勢と構えという項目があり、そこで複数方向から撮影した写真を掲載する工夫があった。体の向きや力の加減、手の使い方について、わかりやすい工夫がされていた。
- 委員・伝統や文化に関する教育の充実という点では、両者とも篠笛、尺八、琴、三味線、和太鼓と5種類の和楽器から選択できるようになっていた。
 - ・教育出版では、『さくらさくら』、『荒城の月』、『勸進帳』など、歌唱や鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されていた。
 - ・教育芸術社では、導入において、その楽器の伝統的な代表曲がまずは

鑑賞教材として紹介されていた。

○委員・音楽の特性として、表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、教育出版では、共通事項である音楽を形づくっている要素の中から旋律、リズム、音色、構成を取り上げて、仲間と意見交換しながら合奏を完成させるという学習が設定されていた。教育芸術社では、共通事項である音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されていた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ音楽（器楽合奏）の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

（異議なし）

美術

- 議 長・美術は3者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委 員・3者それぞれの工夫、特色について、特に印象に残ったというところがあったら、教えていただきたい。
 - 調査員・3者とも学習の目標が題材ごとに示されている。開隆堂出版と日本文教出版は3つの観点で目標が示されている。光村図書出版は鑑賞と表現で目標が示されている。
 - 委 員・様々な芸術作品だったり、各種の目標だったり分かりやすく示されていると感じた。実際に作品を仕上げる上で、教科書を具体的に授業の中でどのように使われているのか教えてほしい。
 - 調査員・題材の導入部分で使うことが多い。芸術家の作品や教科書に載っている生徒の作品を見せて、これから取り組む内容のイメージを持たせ、イメージを膨らませるといったところで扱うことが多い。
 - 議 長・小学校での図画工作から中学校で美術になるということで、最初の単元、最初に生徒に見せるページなどで、それぞれの発行者の工夫はあるか。
 - 調査員・3者とも図画工作とのつながりを示していた。マップのようにしてあったり、道のようにしてあったりするなど、それぞれがつながっているということを示していた。
 - 議 長・ほかに質問はあるか。
- <<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議 長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委 員・各者とも学習指導要領において示された資質・能力の3つの柱で整理されていて、各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がされている。
 - ・開隆堂出版については、発想や構想の視点として、学習のポイントという形で掲載されているところが特徴的であった。
 - ・日本文教出版は、作者の言葉として作者の思いが掲載されているところが作品をよりよく理解するということにつながっていくと感じた。各教材の発想や構想、鑑賞に関する目標が示されて、それも思考力・判断力・表現力の育成について、生徒が捉えやすいという工夫が伺えた。
- 委 員・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫や配慮についても各者ともそれぞれ工夫が見られた。光村図書出版は、作品を作ったり鑑賞したりするとき、発想を広げるマッピングという活用方法や附箋を利用

した話し合いの方法などが掲載されていた。実際の学習活動に生かせると感じた。

- 委員・生徒の学習上の困難に対して、各者ともに工夫や配慮がなされていた。
 - ・光村図書出版は、2人の生徒が表現していく過程について、発想や構想の段階から完成作品までの順序が活動の様子やアイデアスケッチなどの写真や文で示されていた。開隆堂出版は、中学校以上で習う漢字にルビが記載されていた。各ページの図版には番号が示されていたり、安全に関する注意点には注意を促すマークが記載されていたりしていた。
 - 委員・各者とも生徒にとって理解が深まるような構成上の工夫や配慮がされていると感じた。日本文教出版では造形的な視点で物事を捉えるため、「つやつやした感じやかたさなどは、どこから感じるのだろうか。」などの吹き出しの言葉で示されていた。
 - ・開隆堂出版は、生徒作品とともに、その生徒が表している表現の主題が「作者ことば」として示されていた。また、題材に関連する専門的な用語が「美術の用語」として掲載されており、生徒にとって理解が深まることにつながるのではないかと感じた。
 - ・光村図書出版でも工夫が見られ、表現題材の学習過程が、2人の生徒が表現の主題をどのようにもち、それを表すためにどのように試行錯誤したのか、写真やアイデアスケッチ、「水たまりに映った青空が美しく見えたので、明るい色で強調して描く。」などの言葉とともに紹介されており、授業展開に活かせるのではないかと感じた。
 - 議長・ほかに意見はあるか。
 - <<なし>>
 - 議長・なければ美術の検討を終了する。
 - ・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
- (異議なし)

保健体育

- 議長・保健体育は4者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・各者それぞれ工夫を凝らしていると思うが、各者、特に印象に残った工夫点があれば教えていただきたい。
- 調査員・東京書籍は、インターネットに関わる問題や環境問題に多く触れていた。大日本図書は、見開きの左が文章、右が資料というのは、生徒にとってわかりやすく、説明もしやすいと感じた。大修館書店は、世界的な問題として環境問題を取り上げている。4者の中で一番大きく取り上げていると思う。学研教育みらいは、グラフなどの資料が何年のどこから出された資料であるかがはっきり明確に示されていると感じた。
- 委員・保健体育といえば実技が中心になってくると思うが、教科書は授業の中でどのように使われているのか。
- 調査員・知識などを教える際に、教科書の資料などを活用しながら指導している。それぞれの教科書に特色があるが、教科書の最後のほうには発展的な内容が掲載されているので、生徒たちに話し合い活動などをさせながら、課題解決能力の育成を図るために教科書を活用している。
- 議長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委員・4者の中の3者がA B判で、大日本図書だけB 5変形判ということで、少し小さいという印象がはじめはあったが、見開きで非常に資料がまとまっていて分かりやすかった。全体的にどの発行者もイラストや写真など資料が豊富で分かりやすいという印象である。
- 委員・学習するにあたっては、生徒が自分自身の生活における健康安全について考えることができるように支援することが必要である。各者とも、自身の健康安全について考え、他者に表現できるような学習活動の工夫がされていたと思う。
 - ・中でも、学研教育みらいは、具体的に意見を出し合う「考える・調べる」コーナーや学習したことをもとに、話し合う「まとめる・深める」コーナーが設定されていた。また、グラフを読み取り、意見を出し合う活動を取り上げた「考える・調べる」も設定されており、生徒が筋道を立てて学習ができるよう配慮されていると感じた。
- 委員・大修館書店では、話し合う場面や発表する場面を取り上げた「学習の

まとめ」が設定されていた。本文に関連する知識を取り上げた「掘り下げる」、「クローズアップ」、「特集資料」のコーナーが設定されていて、「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫であると感じた。

○委員・誰にとっても使いやすく、生徒の学習上の困難さにも応じた工夫についてそれぞれ特徴があった。東京書籍は、グラフや図を読み取る際の補助となる説明が「ポイント」として示されていた。また、見通しを持って学習を進める4つのステップで校正されていた。さらに、中学校以降で学習する常用漢字にはふりがなが振られており、生徒の学習補助に役立つと感じた。大修館書店は、「課題をつかむ」の蘭で○×で答える内容やクイズ形式を採用している。これは、生徒が各時間の課題を理解することで見通しを持った学習につながる良い工夫だと感じた。

○委員・感染症の予防についても記載されていた。現在新型コロナウイルスについて話題になっている。教科書にはなかなかそこまで含むことができないと思うが、そういった内容に関して、これから詳細が分かってきたら、学校単位、教育委員会から、このような話を踏まえて、子供たちへ共通の認識で伝えてもらえると保護者としては助かる。

○委員・各者ともマーク等を使用し他教科との関連等について示されていた。大日本図書、大修館書店は、「理科、技術・家庭科、社会科」の学習内容について示されている。

・東京書籍、学研教育みらいは、「理科、技術・家庭科、社会科、道徳科」の学習内容が示されている。学研教育みらいは、巻末に体育実技や各教科などとの関わりを示した「キーワードで見る保健体育の学習内容」が見開きの表で示されており、生徒が知識や情報を関連させながらより深く学ぶための一助になると感じた。

○委員・各者とも生徒にとって理解が深まるような構成上の工夫や配慮がされていると感じた。学研教育みらいは、「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という目標や学習活動が設定されており、言語活動を通して他者と関わるという上で非常に助けになる。また、章の最初に学習の見通しが持てる資料が掲載されており、実際の授業展開に生かすことができると感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ保健体育の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

技術・家庭（技術分野）

- 議長・技術・家庭（技術分野）は3者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・実技や実習が学習の中心になると思うが、教科書を授業の中でどのように活用していくのか。
- 調査員・授業の中での教科書の活用の仕方としては、まず、知識を身に付けさせるために活用している。材料や加工などにおいても、多彩な加工法や材料によってもそれぞれ違った加工法等があるので、実際には見せられないが教科書の資料を活用して指導し、その中で適切なものはどれかなど、見方・考え方を養うためにも教科書を活用している。
- 委員・技術分野と家庭分野で出版社が異なってしまった場合、指導や評価する上で何か不都合というのは生じるものか。
- 調査員・技術分野と家庭分野で出版社が違ったとしても、大きく不都合はないと思う。同じ発行者だと、リンクしている部分がある。例えば東京書籍は、技術分野の内容で学ぶ生物育成のことが、家庭分野の教科書だと食育の内容で家庭分野の教科書何ページに掲載されているといったようなこともある。
- 議長・プログラミングについて、今回の特徴的な1つだと思うが、全体的な傾向でも結構ですし、各者の特色みたいなのがあれば教えてほしい。
- 調査員・今回、プログラミングのことについて、特に力を入れて構成されていると感じたのは開隆堂出版だと思う。アクティビティー図やUI図を用いて実際に実習を行っているところがあった。
 - ・東京書籍では、アクティビティー図やUI図については、大きくは取り上げてはいないが、プログラミングにおける基礎的な知識や実習等には取り上げられている。
- 議長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委員・大きさは3者でやや違いはあるが、文字の大きさや資料の扱われ方などで、大きさよっての差というのではないと感じた。各者とも見開き2ページを基本として学習を設定しているので、非常に見やすい。また、各編を3つの区切りで構成されているという点も見やすくなっている。
 - ・教育図書については、別冊で技術ハンドブックがついており活用がで

きるのではないか。

○委員・教育図書については、別冊に基本技能、基礎技能というものが例示されていて、制作工程を示すイラストなどで大変分かりやすい。実技技能の内容説明、実際に作業する生徒の目線からの写真を用いて示されている。

・東京書籍は、ミカンのキャラクターの「ミカタン」などといった親しみやすいキャラクターが登場して、学習の見通しや技術の見方・考え方を深めるための補助をしていると思った。技術分野ということで、作業についての安全面の注意は欠かせない。各者とも安全面については、安全マークを表示して注意を促すなど、具体的に分かりやすく説明していた印象を持った。

○委員・他教科のつながりという点で、東京書籍は、各編の最初のページに、何の教科とつながっているかということが示されている。開隆堂出版も各編最初のページに、その編の中にある中学校の他教科の関連という形でまとめられて掲載されている。他教科マークがついていることで、生徒が学習を進めるとき、他教科のつながりでより深い理解につながるという点ではいいと思う。また横断的な教育計画を立てる上でも生かされる内容ではないかと感じた。

○委員・「技術の見方・考え方」や「生活の営みに関わる見方・考え方」についても各者それぞれに工夫がされていた。東京書籍は、ガイダンス資料にある技術の見方・考え方が示された「最適化の窓」や「ミカタン」のコメントでヒントを出す工夫がされていた。教育図書では、技術のプラス面とマイナス面ということで示されていた。いずれも授業展開の中で活用できるのではないかと感じた。

○委員・各者とも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされていた。東京書籍では、話し合う対話的な活動を取り上げた「活動」や、キャラクターが対話することで設計要素を検討できるように例示した「問題解決例」が掲載されている。教育図書の「やってみよう」では、「自分が設計をして政策をした作品を、グループで発表しよう！」の中で対話を例示した「友だちからのコメント記入欄」が掲載されており、生徒の対話につながる良い工夫であると感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ技術・家庭（技術分野）の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

（異議なし）

技術・家庭（家庭分野）

- 議長・技術・家庭（家庭分野）は3者から発行されている。調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・家庭分野からの視点から、もし技術分野と教科書の発行者が違ってしまったとき、指導や評価のときに、やりづらさというものが生じることがあるか。
- 調査員・あるときもあるが、大事なことはやはり生徒の様子に合わせた、生徒のニーズを考えた授業の構成だと思う。
- 委員・調理実習や衣服の実習のときに、教科書はどのように使われているか。
- 調査員・基本的には、説明がまとめられているところも活用するが、生徒の様子を見て、必要なところをピックアップし、ポイントを押さえて授業を進めている。
- 議長・報告書にもあった二次元コードが、今、使われるようになっている。生徒に1人1台の端末が届いたら、それぞれが使うケースもあると思うが、特徴や気になった点などがあれば教えていただきたい。
- 調査員・二次元コードの特性をうまく生かして、教科の特徴や取り扱う内容によって考えて扱えればいいかなと思っている。
- 議長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委員・各者とも多様な写真や図などで構成されており、それぞれ工夫が感じられた。東京書籍は、調理実習例が横の流れでレイアウトされ、開いた状態で学習ができる。布を用いた製作では難易度に幅をもたせた実習例が掲載されてわかりやすいと感じた。
 - ・教育図書は、調理実習の流れが縦で示され、題材が見開き1ページに収められていた。布を用いた製作では「私のアレンジ」のコーナーが設けられていた。また、巻末の献立シールを使ったワークが掲載されている。
 - ・開隆堂出版は、調理実習のページが横の流れで実習のプロセスが示された。食物アレルギー物質について意識できるように、色で部分的に抜き出されていた。
- 委員・他教科との関連について、東京書籍と教育図書は、社会科や保健体育科、理科と関連させ、災害についてそれぞれ『D マーク』『リンク』マークとして分かりやすく示されていた。開隆堂出版では、理科や保健体

育と関連したことを示すマークが、『体に入った栄養素のゆくえ』などにおいて示されている。

- 委員・家庭分野では、実習・製作など実践的・体験的な活動を通して知識・技能を身に付けるだけでなく、それらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図ることが大切である。調理実習等において、東京書籍では、複数の参考例が設けられていた。また、生徒の工夫のヒントとなる「私のオリジナル」が紹介されていた。
 - ・開隆堂出版では、「調理方法 Q&A」として科学的根拠が示されていた。
 - ・教育図書では、「見つめる」、「学ぶ」、「ふり返る」の3つの流れで課題解決学習につなげられるように構成されており、生徒が課題を設定する際に見通しが持ちやすいので使いやすいのではないかと感じた。
- 委員・各者とも生徒同士が学び合う場面として、話し合ったり、発表したりできるよう「幼児とのよりよいかかわり方」等の身近な課題が設定され、テーマを考えやすいように工夫されていた。
- 委員・情報活用能力の育成については、東京書籍では、情報を収集及びその活用を検討し、意思決定をするプロセスが5つの段階で示されていた。
 - ・教育図書では、課題の設定、解決方法の検討、情報収集、比較検討、決定、消費、評価と見直しを行う題材が示されていた。
 - ・開隆堂出版では、情報の発信源、商品購入に必要な情報と活用の仕方、本当に必要な物資・サービスを購入するプロセスが示されていた。
- 委員・社会の変化に対応した課題として、東京書籍では、幼児や高齢者、外国の人、障がいのある人などについて『家庭生活と地域とのかかわり』などに題材が示されていた。
 - ・開隆堂出版では、乳幼児や高齢者、障がいのある人や外国の人、LGBTなど『多様な人びとが暮らす地域』に写真などで示されていた。
 - ・教育図書では、児童憲章や子どもの権利条約、児童虐待の防止、ユニセフの取組などが『子どものすこやかな成長のために』に取り上げられており、写真や絵などでわかりやすく示されていた。
- 委員・日本の伝統や文化に関する教育の充実として、東京書籍は、衣、食、住について伝統的な日本文化が写真や地図などで取り上げられていた。
 - ・教育図書は、地域の食文化や地産地消、全国各地の郷土料理、和食の調理、地域の伝統的な器などが取り上げられていた。
 - ・開隆堂出版は、郷土料理や地域の食材、各地の伝統工芸品などが取り上げられていた。
- 委員・各者ともそれぞれの巻末には、問題解決における具体的な実践例が示されている。特に、教育図書は、各章末にも『学びを生かそう』の中で「課題設定のヒント」や「私の課題」が示されており、関連させて生徒が考えやすいように工夫されていると感じる。
- 委員・家庭分野ということで、料理についてだけでなく、家族環境をよりよくする方法についても具体的に書かれていた。我が子は中学生で思春期

でもある。特に問題はないが、何かあったときに、書かれている内容を参考にさせてもらえるといいかなと思った。

○議 長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議 長・なければ技術・家庭（家庭分野）の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

（異議なし）

外国語（英語）

- 議長・外国語（英語）は6者から発行されている。
調査員に報告をお願いする。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・英語では、生徒が言語活動を行う場面が非常に多いと思う。教科書の中の題材等について、他の教科で学習したことを活用しているとか、生徒の興味、関心が持てるようなものなどの工夫はあったか。
- 調査員・お弁当の話がある。食品の栄養素等を分類する家庭科とリンクした材料がとても面白いと思った。お弁当についても、キャラ弁の話が載っていたり、家庭科でもお弁当作りをし、そういうお弁当をみんなに見せたりとか、話題になっているものが教科書にも扱われている。そのお弁当や食品の分析した表示について英語でも学習していく点はよい。他にも社会科で連動した内容や国語科の「ごんぎつね」が、今の子どもたちにとって取りつきやすい話題である。
- 委員・英語の教科書だと、4人か5人の登場人物が通して登場しており、それぞれの生活を紹介したり、教科書の物語全体をリードしたりすると思うが、国際理解につながるように登場人物の国籍等について配慮はされているのかということで、もし何か特徴的なことがあったら教えてほしい。
- 調査員・どの教科書も多国籍にはなっていて、日本人だけではなく、地域も英語圏だけでなくアジアの国の生徒も登場させている。メインの登場人物の兄弟が海外で生活し紹介する場面があり、英語圏に絞らず、それから日本に絞らず、どの教科書でも様々な国際理解が深められるように工夫されている。
- 議長・ほかに質問はあるか。
<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委員・各者とも、1年生のはじめの部分で、小学校からのつながりを意識した構成となっており、聞くことや話すことを中心に扱っていた。
 - ・また、アルファベットなど文字に親しむ工夫もされていた。東京書籍は、小学校で習った単語が各ページで紹介されており、小学校から系統立てて学習しやすい。
 - ・開隆堂出版では、「小学校英語を生かす」という単元があり、小学校で慣れしんできた表現が例示されていたので、生徒も無理なく学習できる

のではないか。

・三省堂は、小学校で学んだ言葉の使用場面、文字の読み方などを振り返り、文法や文の構造が整理されていたり、卵型のアイコンで見やすくなっていたりしていた。

○委員・小学校では、主に会話でのやり取り、黒板に書いたものを読む、書く活動は少しずつ入ってくる。文になったものをまとまってというのは、なかなか小学校段階ではない。

・1年生の最初は、文字になれるということから、徐々にまとまった英文を読んだり書いたりする学習ができると、無理がないと考えられる。新興出版社啓林館は、1年生の「Let's Start」で、小学校で学習してきた語彙や表現について聞くこと・話すことの活動で復習できるよう構成されていた。また、1年生で扱う言語材料や表現は、小学校で学習してきたものが基盤となっていた。

○委員・紙面を開いて学習する際の全体の中での配列や文字の見やすさ、教室の机の上に置いて開いたときの使いやすさ等が重視されていると思った。東京書籍はA判ということで、生徒が机に教科書とノートを開くと、やや大きめなのかなと感じた。三省堂は、1年生のレッスン3までは、ノートを開かなくても、簡単な文章などを教科書に書き込んで学習ができるようになっていた。

○委員・小学校で習ってきた英語を踏まえて、中学校では実際の場面でコミュニケーションが図れる技能を身につけることも大切であると思う。教育出版のマスキングシートがついている巻末の資料や新興出版社啓林館では、即興的なやり取りができるような活動等が掲載されていて、高等学校への接続も意識されていると感じた。光村図書出版と開隆堂出版は、習った内容を自分の言葉で伝える活動が設定されていた。三省堂は、英語を使用する場面を意識した会話や表現が取り入れられていて、実際のコミュニケーションに近い設定がされているので、非常に使いやすいと感じた。

○委員・内容が生徒の発達の段階や興味・関心に即した効果的な題材が扱われているかということは非常に大切と感じる。光村図書出版は、各レッスンで扱う話題が多岐にわたっていて、特に3年次の「災害時に備える」という単元では、日本にいる外国人に向けての情報発信が自然にできるようになっていた。また、三省堂は、他者、他国との違いを認め、自分の可能性を広げることができるように、例えば、1年生では車椅子バスケットボール、2年生では将来の自分の夢、3年生ではキング牧師について取り扱われていて、読み物教材がとても豊富で、読み応えがあると感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

- 議 長・なければ外国語（英語）の検討を終了する。
- ・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

（異議なし）

特別の教科 道徳（道徳）

- 議長・特別の教科 道徳（道徳）は7者から発行されている。
調査員に報告をお願いします。
- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和3、4、5、6年度用）令和2年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・道徳が教科化されたが、教科化されてから道徳の授業を行ってみて、難しいと感じている点があればどのようなことか。
- 調査員・今年度は特に感染症の関係があるので、重きを置く「考え、議論する」場面で、自分の考えを周りの生徒と共有する仕方がなかなか難しいという点である。1時間単位で授業をまとめるとなると、広げすぎてしまってまとめていくというのも難しい。いろいろな意見が出るのはうれしいが、あまりにも違う意見が出てきてしまったときにどのように考えを共有していくか。今は、ワークシートを回覧するといったやり方などを行っているが、少し難しさを感じている。
- 委員・現在使用している教科書は、別冊がない教科書を使っているが、普段の授業でどのような形で対応しているか。
- 調査員・指導書のワークシートを参考にして作成している。別冊のノートがある場合は、そのまま別冊ノートを活用できると思う。
- 議長・体験的活動とか役割演技が新しい教科書の中にも入っているが、全体的な傾向や特徴的な取り扱い等印象に残っているものを教えてほしい。
- 調査員・役割演技や体験的な学習は、全ての教科書にいろいろ設定されていた。今使っている教科書と比べると、増えているという印象である。
- 議長・ほかに質問はあるか。

<<なし>>

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。
- 委員・教科書の大きさについては、2通りの大きさがあった。教育出版、光村図書出版、日本文教出版、日本教科書、の4者はB5版であり、コンパクトなサイズであり、使いやすい印象である。東京書籍、学研教育みらい、廣済堂あかつきの3者は、A4版で、写真やイラストが大きくて見やすい印象である。
- 委員・別冊についてであるが、各教科書には別冊があるものかないものに分かれていた。別冊があると、生徒一人ひとりの記録となり、生徒が考えたり、振り返ったりすることができる。また、別冊で教員が評価をすることができるようになっている。別冊があるのは、日本文教出版、廣済

堂あかつきである。今は、別冊がない教科書を使っている。別冊ではなく、教員が作成したワークシートや生徒のノートを活用しているという面から、これまでと同様に別冊がない方が使いやすいと考える。生徒の実態に合わせて授業を工夫し、教材を作成することができるので、別冊がない方が使いやすいのではないかと。また、ワークシートを先生自らで作ることが、教材を作成するという点で先生自身も授業が深まるということも考えられる。別冊がないのは、東京書籍、教育出版、光村図書出版、学研教育みらい、日本教科書である。その中でも現在使っている東京書籍は、読み物と同じページに書き込める欄が多くあり、考えたことや思い浮かんだこと、つぶやきをメモしたり、まとめたりするときに活用しやすいと感じた。

- 委員・巻頭には、各教科書とも工夫して道德の授業での学び方がわかりやすく書かれている。東京書籍は、考え議論する道德の授業の流れや話合いの手引きが掲載されていて、話合いをする際に役立つと感じた。教育出版、光村図書出版、学研教育みらいは、学びを深めるための流れや手引き、手立てがわかりやすく掲載されていた。廣済堂あかつきは、自分自身の見つけ方が掲載され、生徒が自分自身で考えるときのヒントになると思う。日本文教出版は、道德の議論の仕方についての視点がわかりやすく掲載されている。
- 議長・道德が教科化されて、「考え、議論する道德」といった点で気づいたことをお願いしたい。
- 委員・思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮について見ると、話し合いを通して様々な考えにふれたり、振り返りを通して自分の考えを深めたりするコーナーが各者とも設定されている。印象的であったのは、特に東京書籍、教育出版、日本文教出版である。役割演技や体験的な活動を通して、人と関わり、複数の人物の多面的・多角的な考えにふれられるように工夫されていると感じた。頭の中だけではなく、実際に体験することによって、さらに道德的諸価値について日常生活に結び付けて考えられるようになると思う。
- 委員・様々な現代的な課題に関する指導の充実について、どの発行者をとってみても、様々な課題についてそれぞれ取り上げている。その中でも、いじめについてすべての発行者が取り上げている。東京書籍、教育出版、日本文教出版は、複数の教材をユニットとして合わせて考える内容になっており、よいと思った。光村図書出版は、学年前半にいじめについて教材が配置され、学級作りや人間関係作りに役に立つと思った。
- 委員・これまでの実践で感じたことは、読み物の文章が多いと読んで理解することに時間がかかりすぎてしまい、道德的価値について考えたり、自分自身を振り返ったりする時間がとれないということである。文章の量がほどよく、また、理解の助けとなる写真や挿絵、図などが工夫されているものがよいと思う。どの発行者も、読み物教材に挿絵や写真を入れ

て内容を理解しやすいようになっている。その中でも特に、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、学研教育みらいは、写真や挿絵、図などにより文章がとてわかりやすくなっていた。

○委員・自分が中学校の教科書を見たのも30年近く前で、ほんとうに変わっているなど、そして、いろいろな工夫がされているなどということを感じた。教科書1つ選ぶのにほんとうに多くの皆さんが関わって、勉強して、決めてくれているということを感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

<<なし>>

○議長・なければ道徳の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や良さがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

道徳の検討を終了する。

16種目全ての協議が終わったので、事務局に進行を戻す。

○事務局・今回の検討の内容を記した会議録及び教育委員のみなさんに送る報告書については事務局でまとめる。

・会議録については本市のホームページに掲載する。

・情報公開の請求があった場合は、検討委員会委員の氏名を公開する。

時期は8月の教育委員会議で7月の教育委員会議の議事録が確定する8月下旬以降となる。

・最後に閉会のあいさつを、副委員長より願います。

○副委員長・挨拶

○事務局・令和2年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を閉会する。

午後4時45分 閉会